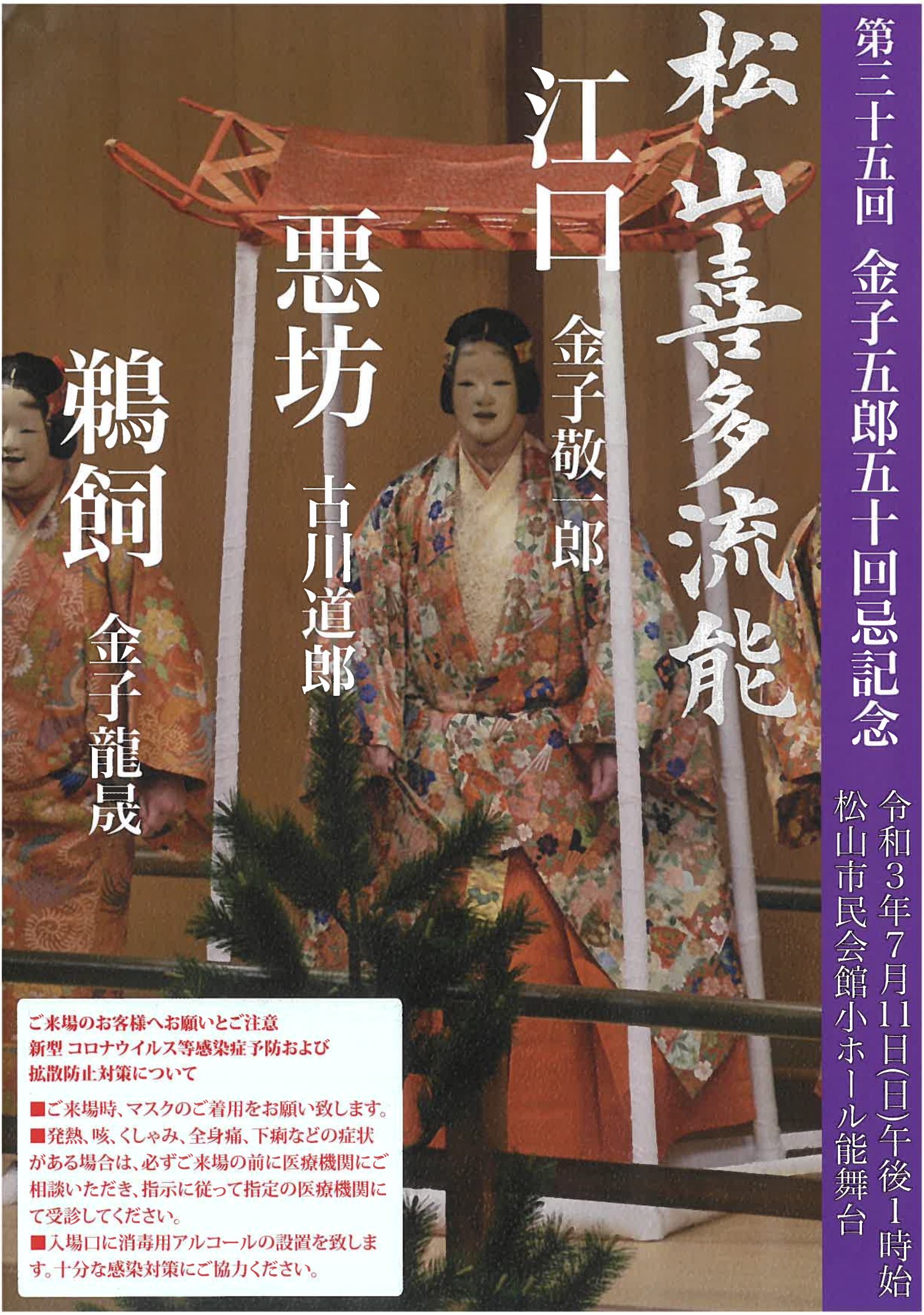


第三十五回 金子五郎五十回忌記念

松山喜多流能

令和3年7月11日(日)午後1時始
松山市民会館小ホール能舞台

江口 金子敬一郎

悪坊 古川道郎

鵜飼 金子龍晟

ご来場のお客様へお願いとご注意
新型 コロナウイルス等感染症予防および拡散防止対策について

■ご来場時、マスクのご着用をお願い致します。
■発熱、咳、くしゃみ、全身痛、下痢などの症状がある場合は、必ずご来場の前に医療機関にご相談いただき、指示に従って指定の医療機関にて受診してください。
■入場口に消毒用アルコールの設置を致します。十分な感染対策にご協力ください。

第三十五回松山喜多流能

解説　大島 輝久

能

江口

狩野 祐一
谷 友矩
金子敬一郎

宝生 欣哉　亀井 広忠
古川 道郎　曾和 正博　杉 信太朗

地頭　長島 茂

―休憩二十分―

狂言

悪坊

古川 喜朗　古川 道郎
古川 裕典

―休憩十分―

能

鵜飼

金子 龍晟

宝生 欣哉　亀井 広忠　林 雄一郎
古川 喜朗　曾和伊喜夫　杉 信太朗

地頭　中村邦生

終了予定午後五時半ごろ

とき・令和3年7月11日(日)午後1時始
ところ・松山市民会館小ホール能舞台

江口(えぐち)

都の旅僧一行は江口の里を訪れます。江口の里は宿場の長であった江口の君が一夜の宿を借りようとした西行法師を断ったという故事で有名でした。僧は旧跡を眺めつつ、西行が宿を断られたときに詠んだ「世の中を厭ふまでこそ難からめ仮の宿りを惜しむ君かな」の歌を口ずみます。すると、どこからともなく現れた女が、江口の君の返歌「世を厭ふ人とし聞けば仮の宿に、心留むなと思ふばかりぞ」を引いて、西行の頼みを断ったのではなく、娼館であるゆえ、出家の身を思って遠慮したのだと言います。僧が、女性に素性を問うと、女は江口の君の幽霊だと言って消えてしまいました。〈中入〉夜半、僧が江口の君を弔います。すると月光の下に江口の君の亡霊が、屋形舟に乗って現れます。絢爛豪華な舟遊びの様子を見せたのち、江口の君は、因果応報、諸行無常を説きつつ舞を舞います。やがて江口の君は、仮の宿であるこの世への執着を捨てれば、悟りを得ると語ります。いつしか江口の君の姿は普賢菩薩となり、舟は白象に変わり、菩薩はその白象に乗って白雲とともに、西方浄土へ続く空へと消えてゆきました。

悪坊(あくぼう)

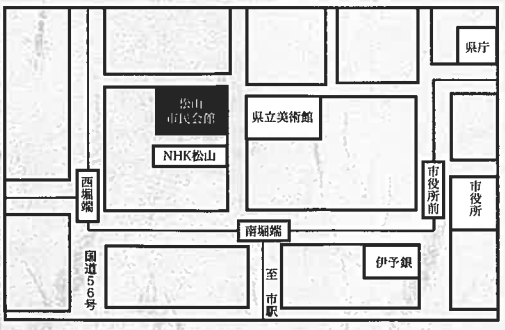
大長刀を持った大酒飲みの乱暴者が僧に纏わりついて自分の常宿に連れ込み、腰を揉ませて眠ってしまう。僧は乱暴者に仕返しをしてやろうと、長刀や小袖を取り上げ、代わりに自分の傘や僧衣を置いておく。目が覚めた乱暴者は自分が出家姿に変わったのは釈迦が化身となって現れたのではと思い込み…

鵜飼(うかい)

安房国清澄の僧たちは石和川のほとりの御堂で一夜を過ごすことにしました。そこに松明を持った鵜使いの老人が現れます。老人を見た僧は、殺生をやめるよう諭しますが、老人は今更難しいと応えます。それを聞いて、数年前に石和に来た従僧が、同様の鵜使いに会って一夜の宿を借りたことを思い出します。老人は、その時の鵜使いが殺生禁断の禁制を破った咎めを受けて、殺されたと告げます。老人はその顛末を語り、自分こそがその鵜使いの亡霊であると明かし、鵜を使った漁の様子を見せた後、消えていきます。〈中入〉僧は、川の石に法華経を書きつけて、鵜使いを供養します。そこに閻魔大王が現れ、殺生の罪により地獄に堕ちるべき鵜使いが、従僧をもてなした功徳で、救いを得たと知らせます。そして、法華経の有難さを讃えつつ、慈悲の心を持って僧侶を大切にするよう勧めます。

チケット問合せ先
〒790-0856 松山市南町2-2-12
TEL 089-931-6928(金子舞台)
E-Mail　k1row@mac.com
鑑賞券8,000円

会場 松山市民会館小ホール能舞台
愛媛県松山市堀之内　TEL 089-931-8181



主催　金子匡一後援会・愛媛喜多会

後援　愛媛県・愛媛県教育委員会
松山市・松山市教育委員会
愛媛新聞・南海放送株式会社
テレビ愛媛・あいテレビ
愛媛CATV・松山芸能文化協会
公益社団法人愛媛能楽協会
(以上　申請中)

無許可での録音・録画は固くお断りします。